

2021年日本経済の展望

三菱UFJモルガン・スタンレー証券景気循環研究所長

嶋しま中なか雄ゆう二じ

- * コロナの先行指標は既にピークアウト
- * 株価に見る悲観、楽観の錯誤
- * 21年度は景気拡張、22年度は調整か
- * 原油価格に左右される交易条件の動向に注目
- * アメリカは住宅需要が未曾有の活況
- * 順調な回復が続く中国
- * 日銀のマイナス金利解除の時期について
- * 21年度は日本の企業業績も改善へ
- * 日本の景気循環は9・5年周期
- * 23年からゴールデン・サイクル入りか



柴生田 それでは開会いたします。（拍手）

本日は毎年恒例になっております、三菱UFJモルガン・スタンレー証券の嶋中さんにおいでいただきました。景気循環研究所長をされておられます。2021年の経済を展望するというところで、綿密な分析と予測をお届けされると思います。改めてご紹介するまでもございませぬが、特に景気循環について独自の見解をお持ちでございますので、最後はそういうお話をお聞けるのではないかと思います。それでは嶋中さんよろしくお願いいたします。（拍手）

コロナの先行指標は既にピークアウト

嶋中 ただいま柴生田理事長からご紹介いただきました。ありがとうございました。

理事長から言われましたように毎年恒例で12月にお話をさせていただいておりますけれども、毎年やっているということは後で検証されてしまふという問題点があります。しかも、オンラインでも講演を聞いておられる方がたくさんいらっしゃるということで、そういう方は何度も巻き戻して聞いている方もいらっしゃる。何か間違った発言をしたり、あるいは間違った予測をすると、そこがクローズアップされてしまふということで困ったものだなと思います。技術革新は光と影両方ありますが、そんなところにも及んでいるのかなと思います。

ちょっと話は違いますが、柴生田理事長が『平成紙つぶて』という本を出版文化社から出されて、私はこれをいただきました。皆さんも